

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和3年度 益田市教育審議会		
開催日時	令和3年11月18日（木）13時30分～15時20分		
開催場所	益田市役所3階大会議室		
出席者	<p>[審議会委員]</p> <p>大賀敏郎会長、塩満恭子副会長、宮崎裕一郎委員、中村奈穂美委員、田村嘉久委員、原陽子委員、八束政義委員、野村大輔委員</p> <p>[事務局]</p> <p>高市教育長、野村教育部長、大畑ひとづくり推進監、長嶺教育総務課長、田原学校教育課長、松元学校教育課参事、齋藤課長補佐、岩崎主任主事</p>		
議題	<p>(1) 学力育成を支える施策の推進について</p> <p>①令和3年度全国学力・学習状況調査結果</p> <p>②令和3年度定着度調査結果</p> <p>(2) 令和3年度(令和2年度事業分)益田市教育委員会点検・評価報告書について</p>		
公開・非公開の別	公開		
傍聴人の数	0名		
審議経過	<p>1 教育長あいさつ</p> <p>2 委員及び事務局自己紹介</p> <p>3 会長及び副会長の選出</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 学力育成を支える施策の推進について</p> <p>①令和3年度全国学力・学習状況調査結果</p> <p>②令和3年度定着度調査結果</p> <p>[事務局からの説明]</p> <p>①令和3年度全国学力・学習状況調査結果</p> <p>・各教科の平均正答率について</p>		
事務局		島根県平均との比較	全国平均との比較
	小学校6年生の国語、算数	ほぼ同水準	3ポイント程度下回っている
	中学校3年生の国語、数学	4ポイント以上下回っている	4ポイント以上下回っている

	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生の国語について、言葉の特徴や使い方に関する事項については全国平均並みだが、ほかの領域については全国平均を大きく下回っている。 ・小学校6年生の算数について、算数の数と計算、図形というものは全国平均並みだが、ほかの領域は全国平均を下回っている。 ・中学校3年生の国語、数学については、全ての領域で全国平均を下回っている。 ・意識調査について、楽しいと答えた子が、肯定的な回答が73%、小学校6年生が73%、中学校3年生が79%という結果が出た。 ・家庭学習時間について、小学校6年生については前回の2年前を大きく上回る、ほぼ全国、県と同じ数字になっている。中学校3年生については前回から8ポイント下がっているが、令和2年12月に行われた県の学力調査から考えたときには10ポイント以上の上昇が見られる。
事務局	<p>②令和3年度定着度調査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・益田市定着度調査は、学力というものを学力のレベルとして提示している。 ・昨年度始まった調査であり、今年度は2年目ということで、初めて伸びが分かる年である。 ・国語科の傾向としては、現在の中1、現在の小6の伸びが大きかった。 ・算数科について、現中3から現小5まで伸びが2以上得られている。国語科に比べて算数科のほうが非常に伸びが見られるという傾向が出ている。 ・結果は、児童・生徒に渡しており、一人一人がどのように自分が成長したかということが具体的に分かる仕掛けとなっている。 ・各教科の伸びの状況というところで、学力レベルが4であり、これは、いわゆる益田市の総合振興計画で目標値として掲げているKPI3.1を上回っている。
委員	<p>[意見、質疑応答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧に分析をしておられるなという印象を持った。これを受けて大枠でよいので益田市教委としての課題が分かれば教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科については、読解力、表現力が、小学校、中学校ともに課題があるという結果が、特に大きく出ている。算数・数学科については、小学校だと、複数のデータを使って問題を

委員	<p>解いていくところが課題であるという結果が出ている。中学校3年生だと、図形、数と式の基礎的な問題の誤答が見られた。今年度は始まって2年目であるのでまだ1つのデータしかないが、これを積み重ねていくことで、児童・生徒たちにとっては学びの記録を実際に具体的に見えてくるということを生かしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言われたとおり子どもたちにも何で伸びたのか、何で伸びなかったのかということ伝えてやる必要があると感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定着度のほうは子ども自身が自分の伸びを理解して知ることができ、そこに向かって学校側も子ども自身も取り組むことができるのですごく良いものだと感じた。今の小学校6年生と中学校1年生のところで伸びがよかったように調査で出ているが、そこに関しては教育委員会として児童・生徒たちに何か取り組んだものがあったのか、その辺を教えてください。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・因果関係については、具体的にこれというものがまだ導き出せていない。だが、これに関連して、小と中の接続については今回一定の結果が出ている。小学校高学年から中学校に向けた接続にこれからもっと力を入れていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定着度調査について、学力の点数の部分の分析と質問紙の分析のクロス表の作成など何か行っているか。例えば家庭学習を多くしてる子は伸びが高いとか、何かあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての問題とクロス分析していないが、例えば先ほどご指摘いただいた家庭学習の時間、それから学力の結果については、今回の調査からは明確な相関というか関連性は見られなかった。だが、一方で例えば学力調査にあるメディア接触の時間、例えばゲームの時間やパソコン、スマホの使用時間と学習の成績についてはある程度関係性が見られた。よって、家庭学習の時間をたくさん取ったからといって必ずしも成績に結びつけられるわけではない。一方で、メディア接触しているということは、どうも学力に関係がありそうだと出ている。
事務局	<p>[今後の対応について事務局から説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査を受けて ①現在、計画訪問ということで指導主事が各学校を回っている。その中で、お互いに学校と分析結果を見ながら状況を把握すると同時に、今後の対応について学校側が出された方法と教育委員会の見取りを突き合わせながら、具体的な取組を今各学校で1個1個進めているところである。

	<p>②益田市未来の担い手育成コンソーシアムにおける協議を進めている。具体的にはコンソーシアムの中にある学び部会で学習指導や家庭学習の在り方について協議を始めている。</p> <p>③学習習慣の定着の推進ということで、授業と家庭学習をつなぐ家庭学習の実践を各学校へ依頼する。</p> <p>④P T A組織と連携したメディアコントロールに関する啓発活動の推進や年間17回ほど土曜日に小・中学生へ学びの場を提供している学び舎ますだを今後も実施する。また、今年度夏休みに初めて行った島根大学の学生に算数と数学を小・中学生に教えてもらう算数・数学パワーアップ教室を今後も計画的に実施していきたい。</p> <p>○定着度調査を受けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力を伸ばしている取組の共有する場を計画している。伸びというのがいかに大切かというところを踏まえて、市内全体の先生方と共有したいと考えている。
委員	<p>[意見、質疑応答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校現場の気持ちとして言わせてもらうと、今本当に教職員もなかなか多忙である。その中で学力向上ということも考えていくが、ぜひこの分析をして、その学校の重点的なものを学校と一緒に考えていただいて、優先順位でもいいと思っているが、その1番からやっというような焦点化、そういう提言の仕方をやっていただくと学校側も取り組みやすいと感じた。それともう一つが非認知である。認知の面ではない部分で、子どもたちが学ぼうとか学びたいとか、そういったところも育てていかないとなかなか学力は上がらないと強く感じている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と一緒に考えていく、優先順位をつけて焦点化することは本当に大事だと思っている。優先順位をつけて取り組むことを今我々も学校訪問を通して意識しているが、より今後もそういう意識を強くして取り組んでいきたい。非認知についても、学習に向かう意欲だったり、自分の自己肯定感だったり粘り強さだったり、いらいらしない、心の平静を保てるというような、非認知というものも数字として出ているので、教育委員会として分析していきたい
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や学びに向かうまでの根っこの部分を育てている就学前の幼稚園だったり認定こども園だったり保育園の役割はすごく大きいと、この結果を見てとても思っている。先ほども言われた非認知能力、自分が肯定されて育っていくところを就学前もしっかりやっていきたいと感じた。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・定着度調査について、他県では国語、数学にとどまらない、ほかの教科にわたってやっているところもあるが、益田市もそのような発展性は今後考えられるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ現時点では英語科をする、しないという明確なものは持ち合わせていない。本市の伸びの状況を含めて、学習状況を踏まえながら検討していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしていると、なかなか学力、実際に上がってきてない状況がある中で、どういった形で教えていいか、どう関わっていいかが保護者としてはなかなか難しい。頑張れとは言えるが、具体的にどうしたらよいか難しいところで、こういった定着度調査等があると今の立ち位置が分かるというのは、保護者としてはとても助かるなと思っている。保護者にも共有できると、先生と保護者とが同じベクトルに向けて学習、学力の向上に進んでいけると思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者さんには簡単な文書でしかお知らせしていなかったように思う。今後、保護者さんにどう発信していくか具体的に考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場の職員の声では、大きな3つのテスト、調査が入ったことで負担感が多いなと感じている。県の学力調査をこれに代えることができないかと思っている。要するに全県的にこの形の調査になれば良いのではないかと思っている。県の学力調査につきましては、問題作成が非常に年によって差があるので、客観性があまり見えてこないのではないかと思っている。定着度調査、埼玉県形の伸びを見るというのは非常に画期的な調査ではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を巡ったときに、伸びが分かる調査はぜひ続けてほしいという学校からの声を聞いている。負担感を減らしつつ、これをしっかり有効活用するという方法も模索しながら、効果的に子どもたちの教育に生かせるように工夫したい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この資料を事前に見たときに一番驚いたのが、学校に行くのが楽しいと思いますかという質問に対して73%、全国平均よりも10ポイントも低いという結果である。直接関係はないかもしれないが、少年野球を教えに行っているが、伸びる子は野球を楽しんでいる子が一番伸びている。これは学校教育とはあまり関係ないかもしれないが、もしかして学校が楽しいとなったらおのずと学力の向上にもつながってくるのではないかというところが率直な意見である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先行している埼玉県のほうで調査をしたときに、子ども同士の関係性がどうであるか、それから子どもと教員がどういう関係であるか、学力が先なのかその関係が先であるかという

委員	<p>ことは置いておいて、それは相関関係があるということであった。安心して学べる環境に向けて努力したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門高校、それからいわゆる進学校と言われるところを経験、したが、いわゆる文武両道は、どの学校においても通用するということを体感した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・益田市独自の取組が気になっている。この4月に来て、益田市さんは、地域との連携がすごく素晴らしいと思っている。それと、ICTにも力を入れていこうというところもある。そういったところをしっかりと見据えておられて、まずは地域との連携みたいなところをどう学力と結びつけていくかというようなことが1つ考えられるかと思った。是非そういう益田市らしい今後の取組を学力向上に結びつけていけるといいと思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だけにとどまらず、学校、家庭、地域で使うという新しい学びの形というのもしっかり進めているので、おっしゃっていただいた視点も踏まえながら進めていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、すごく得意な子どもさんにとっては、そういう調査はどんどん伸びていくと思うが、苦手なお子様もいると思う。そういう子どもさんについての手助けというか、学校に来て楽しく勉強して、勉強したらすごく伸びるという、何かそういう方向づけはあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことに対してもできるだけ個別の支援で子どもが伸びるように、またやる気になるように、しっかり具体的な関わりということを学校とやり取りしながら進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者さんも多分気になると思うが、学校と保護者さんとの連携もしっかりできているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのやり取りを含めた保護者さんとの関係づくりというのは当然教育委員会としてもしっかり学校と連携、情報交換しながら進めていきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響もあると思うが、今ことごとく学校の行事が短縮されているが、そこら辺は縮小していかなければならないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領が新しくなって、授業時数というのは当然増えている。その中で、学校としても学校で大事にしたい目標があり、それに応じて、力を入れる行事というのは優先順位をつけていると思う。その中で、行事の縮小であったり、逆にあるものは充実するということもある。学校の特色や経営の方針で変わってくると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも学力検査をニュースで知るが、島根県は低いなと感じている。どうしてこのように全国で差が出るのかいつもニュ

事務局	<p>ースを見るたびに思っていた。勉強の意欲を高めるために、目標を持たせてあげるとか、意欲的に取り組む、そういったことが大切かと幼児教育に携わる者としていつも思っているし、考えていかなければと思っている。</p> <p>[事務局からの説明]</p> <p>(2) 令和3年度(令和2年度事業分)益田市教育委員会点検・評価報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価の対象は、益田市の教育に関する大綱、大きな4つの目標と、これに令和2年度は重点項目を3つ加え、7つの重点項目を掲げた。 ・目標どおりの成果があったとしたA評価については、保育園、幼稚園、小学校、中学校の一貫した食育の推進、教育と子育てが一体となって子供たちの成長を支える仕組みづくり、公民館活動の充実、各地区の人権・同和教育推進協議会、こうした委員の皆さんへの人権・同和教育の推進の4つである。 ・期待した成果が認められなかった、いろいろ取り組んだ結果、思ったようなことにはならなかったというD評価は、家庭での生活の充実であるメディアコントロールに対する保護者を対象とした研修、家庭学習定着に向けた自主学習推進に関する取組である。 ・学校給食について、新型コロナウイルス感染症や九州北部の豪雨等の影響で野菜価格や牛乳単価が上がっており、給食費を小学校は258円、中学校は301円で運営することが非常に厳しい状態になっているというのが現状である。 ・外部評価委員さんからは、学校への社会教育コーディネーターを配置、ライフキャリア教育による高校生と市内の人が触れ合う機会の充実という部分は特に高く評価をいただいた。また、小学校の算数は島根県平均を上回る結果であるが、中学校になると下回るという傾向が続いており、中学になると大きく落ち込むことも憂慮すべきであるということの意見をいただいた。そして、教員のメンタルヘルスについても、超過勤務の縮減は大きな課題であるということを指摘いただいております。令和2年度は若干減ってはいるが、本来の働き方改革が進んだ結果ではないということもご指摘をいただいた。
委員	<p>[意見、質疑応答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行や共働き世帯の増加に伴い、幼稚園は園児が減少して、幼稚園連合会としての機能も弱くなってきている状

事務局	<p>況であるので、行政とともに定期的な情報交換や情報共有をしていきたい、連携の強化を図りたい、そして幼児教育に対する理解を深めていきたいと思っている。A評価のところで、保・幼・小・中の一貫した食育の推進について、保・小・中となっているが、幼稚園はこれに加えさせていただけなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育の部分ということでいくと、なかなか幼稚園と連携が取り切れていなかった。そういう中で、このたび幼稚園に通われた方が小学校に入るときに、学校の給食はどんなふうになっているのかと、保護者さんが言われたことをきっかけに、去年学校の栄養教諭と話をし、取り組んでいるところである。栄養教諭が高津学校給食センターには全部で3名いるが、順次担当を決めて幼稚園との連携について取り組んでいきたいと食育の部分で考えている。
問合せ先	教育部教育総務課 電話 0856-31-0441